



内生寮申合條約



114  
A4177

條約



一當今萬國交通國勢一變之際  
付テハ撥亂反正ヲ目的トシ昇平ノ  
故習ヲ去學業一新スルヲ至西女ト

スルヘシ

一昇平ノ末ニテ第一ノ通志ハ頗憚因  
循ニリ故ニ今ヨリ諸事徹正ヲ尚信

大正十一年四月贈  
隈侯爵邸寄

賞必罰ノ旨取リ一般紀律ヲ振正  
 スヘシ依之平生常規ヲ約スル左ノ如シ  
 一 毎朝正明六ツ時ニ一番板亦ヲ亦  
 功ルヲ期トシ一紗起キ夜具ヲ方付  
 寮内掃除シ讀書ノ用意スヘシ  
 一 着番板ノ歩切ルヲ期トシ講堂ニ  
 着列スヘシ  
 一 着列後ヨリ朝七ツ時迄ヨリ正課トシ

晝九ツ時迄ヲ餘課トシ晚三時ヲ休  
 トス或ハ館内ヲ散歩運動ヘシ  
 一 暮六ツ時ヨリ四時ニ至ルヲ正課トス  
 四時ノ拍子亦歩切ヲ期トシ一紗  
 光以聲ノ讀書ヲ禁ス又ノ睡ヲ  
 妨クヘカラス  
 一 寮中ニテ飲食ヲ禁ス偃臥ヲ禁ス  
 正課中會然ヲ禁ス

一 病アル者ハ其故ヲ謝シ接上ニ寐ヘシ  
醫者某ヲ用ヒサル微病ハ一日一夜ヲ限

リ家ニ帰ルヘシ

一 帰家ハ月二十度ヲ限ニ成丈正  
課後ヨリ帰ルヘシ止ヲ得サルハ  
其故ヲ家系長ニ謝シ帰ルヘシ  
帰家モ之ニ準ス

一 但シ度數ハ十度ノ内ニアルヘシ

一月ニ六夜ノ下宿ヲ許ス一夜  
下宿ハ願メ之ヲ家系長ヘ申シ  
置キ帰ルヘシ翌朝ハ朝六ツ時  
ニ上校スヘシ其期ヲ延列スルハ  
之ヲ翌内ノ帰家ニ等入スヘシ  
ニ夜下宿ハ二度ノ帰家ニ準ス  
三夜下宿モ同シ但正明六ツ時

上校スヘシ其期ヲ延引スレハ  
御暇ヲ願フヘシ朝課後月察頭

リ取計フ

一 隔月廿日ノ御暇許ス但為敷ハ月ニ及

一 御家御暇下宿ノ帳簿ニ察頭

察長ヨリ之ヲ監ス

一 察内借用ノ書ハ家ニ持帰ルヲ

禁ス帰家ノ時ニ察長一返スヘシ

一 火番毎察立人宛必ス感リシ名

ルヘシ

右ノ條款尺寸ヲ領指ヲ許サズ是必

四封ノ由ヲ起リ所ナリ月ヲ三條ヲ約ス

左ノ如シ

一 右條約ニ急ル者ハ二返コテハ之ヲ規

切ス朋友ノ道ヲ書ス所以ナリ  
 一三及ニ及ル者ハ禁ルヲ以テ之ヲ  
 罰シ耻カシム禁ルニ及マテハ之ヲ  
 許ス朋友ノ厚誼ヲ存スルナリ  
 一懶惰且由ニ及フコト自立ノ力乏  
 シキ者衆人ニ之ヲ義絶ス察ヲ退ク  
 へし

一學業ノ初程ハ略專州分科ノ法  
 ヲ設ケ趣向ヲ定メ精熟ノ地位  
 ヲナス左ノ如シ

文法學

初級 十二歳ヨリ漢文ヲ讀ムヲ粗解セ凡  
 以上ヲ入ルヘシ

會讀小學

誦讀假名本

諸書ノ假名文歴史等  
 六度復テ二則ヲ課ス

月

但レ正課ノ餘暇ニハ之ヲ以テ餘業トスヘ

二級 漢文ノ文理ヲ粗之ヲ解讀セル以上ヲ入ルルヘシ

會讀 孟子 誦讀 漢譯書

月ニ六度 漢文和譯 二則ヲ課ス 但レ前ニ月ニ某國公法漢文

和譯ヲシテ準ヲ取可ナリ

三級 漢文ヲ讀ミ大至我ララズスルヲ得ル者以上ヲ入ルルヘシ

會讀 同 誦讀 編年漢史

綱目 紀事本末 通鑑 月ニ六度 紀事

二則ヲ課ス

# 分科學 一 政體科 國典 科漢

典科ニツラ分ツ國典科ハ國典ヲ主トシ漢ノ經史ヲ兼ルヘシ漢典科ハ漢ノ經史ヲ主トシ國典ヲ兼ルヘシ和漢合一ノ者ヲ知り互ニ偏頗セザラシムル所以ナリ

# 一 兵法學 法制器械皆西洋ヲ主トス 其發掘ノ法用テ孫吳及ヒ和漢ノ歴史ニ監ミル

# 一 經濟學

經體の尚書周礼詁書食  
化貝志の先丁精氷經の西洋

譯書ニ察及更ニ歴史ヲ讀ミテ得失利害

ニ達スヘシ

此學開産商法ノニヲ分テ凡創案ナレハ茲ニ  
之ヲ區分セヌ

## 凡三門

政體學

### 第四級

漢ノ經史ヲ粗看以テ和漢書ヲ粗  
講明セル以上ヲ入ルヘシ

會讀典謨大禹謨

欽

餘官制

### 書

國典ハ職員令職官鈔  
漢典ハ詔石官志

誦讀歴史

日本史 唐書

通鑑

月ニ至及官制ノ大義ニ條ヲ策問ス後ニ二科

ニ之做フ 但シ和漢文並用

### 第五級

會讀同

餘制度書

國典令拾或漢典  
周礼 唐六典

誦讀歴史

六國史 國史  
左國史 漢唐書



第六級

右政體學

第四級

孫吳

三兵法

法

誦讀

通鑑類

國史元  
之準又

第五級

同

士官必携

誦讀

第六級

西洋兵書操演書等

右兵法學

第四級

誦讀

周禮司徒職

餘課

食貨志

漢唐

誦讀

第五級

同

餘課

經濟學

誦讀 萬國地理諸書 植物 動物  
新編ノ類也

### 右經濟學

凡會讀ハ以テ大體ヲ看ハ所ナリ餘課  
ハ以テ委曲ニ通スル所ナリ誦讀ノ書以テ  
是ヲ活用ス  
月ニ六度ノ會ヲナシ兩月ニ九度問難  
ヲ設クスヘシ委曲ハ後ニ章程スヘシ

各科ニ等級ヲ設クルハ躰等ノ弊ヲ防  
ク所ナリ先進後進互ニ相親接誘導  
シ務テ學術早達ヲ謀ルヘシ

等級分科ハ此ニ大略ヲ以テ草創ス  
三ノ業終リ諸學稍進ク後ニ更  
ニ潤色章程スヘシ

言ハ以テ意ヲ達シ文ハ以テ言ヲ求メ學者ノ  
必須ニシテ廢スヘカラサル者ナリ諸級ノ問難ハ各

以テ之ヲ解クヘシ但和文漢文雅俗ヲ  
厭ム之ヲ用フ只達意ニ取ル故ニ唐宋  
八家ノ法門ノ華ニシテ實之ニシテ文體  
ハ禁條ニテリヘシ

算術ハ諸科必須ノ業ナリ餘課ノ代  
ニ之ヲ學フヘシ書學ハ文ニ重ムル必須ノ  
業ナリ文法學科ノ者餘課中ニ一時  
ニ之ヲ課スヘシ

詩歌ハ人之襟懷ヲ暢達ス亦廢レ難シ  
餘暇休時ニ之ヲ玩フヲ禁ルセズ

先進後進相誘導スル法第一級ノ  
課程ハ第四級ヨリ之ヲ教ヘ毎級ニ等  
ノ間テ、教ユヘシ

教者學子之半故、餘課中ニ之ヲ施ス  
ヘシ

月ニ期望ニ及ミ休ムヲ約ス

月三六度晚二時ニ  
杖技馬ニ出琴  
ス入レ